

令和4年度 体力向上における各校の成果(小学校)

福井市

教育委員会

No	学校名		成 果
1	木田	小学校	学習カードやICT機器の活用(高跳びや器械運動の技を見ることなど)により、個に応じためあてをもって運動学習に取り組む児童が増えた。 来年度も感染予防を考慮しつつ、十分な学習指導、体育的行事が行えるようにしていきたい。
2	豊	小学校	年間を通して学習カードを活用したことで、児童一人一人が単元の目標を理解し自分のめあてに向かって授業に取り組むことができた。 ボール運動でICT機器を活用し授業を展開したことで、自分だけでなくチームとしての動きを振り返ることができ次に生かすことができた。
3	足羽	小学校	学校評価アンケートにおいて「体育等、めあてが達成できるように取り組んでいる。」 R3年度:84%からR4年度:94%に上昇した。
4	東安居	小学校	学校行事(体育大会やマラソン大会など)では、感染症対策でいろいろな制限があったが、全教職員の協力によりどの活動も児童の意欲の向上が見られ、充実した活動になった。また、それぞれの行事で十分な運動時間も確保することができた。 時間割や着替える場所を工夫したことで、コロナ禍であっても水泳指導をすることができた。また、感染症対策で行ったが、コロナ禍が落ち着いても十分活用できる方法であった。
5	湊	小学校	マラソン大会は低中高に分かれて実施したが、どの学年でも児童の意欲的な姿やタイムの向上が見られた。多くの学年が時間走を効果的に取り入れ、児童の体力だけでなく意欲面への支援も行っていた。また、走り終えた児童が仲間を応援する姿が多く見られ、共に高め合おうとする態度の育成も図ることができた。 「メディアコントロール」を年2回設定し、メディアの使用と生活リズム、学力への影響を児童と家庭に啓蒙できた。秋と冬の2回行い、目標を達成できた児童は1回目は全体の58.3%だったが2回目は全体の62.8%となり、児童の意識付けを図ることができた。
6	春山	小学校	マラソン大会は低中高でコースを変え、意欲を高めた。 また、器械運動発表会では他学年と組み合わせ実施して目標を持たせたことで、練習に積極的に取り組む児童が多かった。 筋力向上を目的とした朝活動を、年間を通して全校で取り組み、上体起こしの項目で昨年度は学年の半分程度しか県平均を上回らなかったが、今年度は全学年・男女で県平均を上回った。
7	順化	小学校	「体育や運動がやりたくなる」という視点で授業や体育的行事を行ったことにより、体育嫌いや苦手意識のある児童が取り残されずに、「自分にもできた」という意欲的な姿が見られた。 持久走では、自分に合った目標(距離やペース)を選択し、走運動に取り組むことで意欲的に活動できた。 また、器械運動では、自分が出来る演技に自信を持って取り組み、「楽しかった」「できた」とふり返りをしていた。 小規模校なので、異学年交流によってお互いに高め合ったり、上級生を見習ったりする児童もいた。
8	宝永	小学校	ICT機器を日常的に活用することで、チームや自分の課題をより明確にすることができ、意欲的に学習ができた。 体力テストの練習スペースを設けたことで、児童が進んで練習に取り組むことができた。昨年度に比べてTスコアの数値が約3%向上した。 新しく竹馬と一輪車を購入し、休み時間に自由に遊ぶスペースを設けたことで、児童のバランス感覚を養うことができた。
9	松本	小学校	体力テストのボール投げは、結果が良好で、昨年度から継続した指導がいかされていると思う。 指導と評価や再評価について共通理解したことにより、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。児童アンケート「自分は体を動かしたり、体育をがんばったりして体を鍛えている」の結果、昨年度の93%から95%に向上した。

10	日之出	小学校	主運動に合った準備運動に取り組むことで、授業ごとに様々な動きをバランスよく行うことができた。 委員会やクラブ活動を積極的に行えるようになり、児童から自発的に遊びを提案したり、休み時間にもできる遊びを考えたりする姿がみられた。そこで、体育委員会だけでなく他の委員会も遊びの企画を考え、年間を通して楽しく運動する機会をもつことができた。
11	旭	小学校	ボール運動に関わる備品を購入することで、児童を小人数のグループに分けたり、児童同士の距離をあけたりするなどの感染対策を講じながら学習ができた。 中学校区のアンケートで「運動をすることに興味をもち、目標をもって体を動かしていると」答える児童が9割を超えた。
12	和田	小学校	体育館やグラウンドの割り当てを昨年度よりも増やしたことにより、運動に取り組む児童が増えた。 マラソントイムの活動中は、朝の活動の時間を使って全校をあげて外を走ることができた。 器械運動や縄跳びの学習では、学年内で発表会を行うことで目標をもって取り組ませることができた。今後も児童が楽しみにしている行事を工夫して開催できるようにしたい。
13	円山	小学校	年度末のアンケートにて「スポーツ・運動が好きだ」と答えた児童の割合は87%であり、目標の90%をほぼ達成することができた。これは、授業や行事を通じて運動する楽しみを感じさせる手立てを講じた成果と言える。また、時期に合わせて休み時間の運動場所を割り当てているため、なわとびやボール運動に取り組む児童が多い。
14	啓蒙	小学校	継続して体を動かす運動に対してネガティブな意識をもたず、一生懸命取り組む児童が増えてきた。 どの学年でも友達と関わって体を動かす活動の工夫に取り組んだことで、友達と協力したり、関わったりして運動する楽しさを感じる児童が増えた。
15	西藤島	小学校	感染症対策として体育館の割り当てや鉄棒の使い方を工夫した。マスクをしながらの休み時間だったが、体育館やグラウンドでよく遊ぶ児童が見られた。 学校アンケートの「体育大会やマラソン大会の時には、めあてをもって取り組み、最後まであきらめないでがんばった」という項目では全校の98%の児童が、がんばることができたと回答した。
16	社北	小学校	体育的行事の内容を精選し、感染症対策を十分に行うことで、できる限り実施することができた。 晴れた大休みは、全校児童が外で体を動かすことを奨励し、楽しく体を動かす機会を増やした。 体育委員会の運動を提案し体育館で行う取り組みは、児童に好評だったので次年度も取り組んでいきたい。 学校評価アンケートの体力づくりの項目では、児童の88.6%が肯定的回答をし、コロナ禍でも多くの児童が体を動かせていた。
17	社南	小学校	校内体育部を組織したことにより、体育大会を始めとした体育的行事について全校体制で取り組むことができ、円滑に進めることができた。 委員会活動でのビデオ放送により、感染対策をしながら全校の運動に対する意欲を高めることができた。
18	安居	小学校	今年度の体力テストの結果から、男子は上体起こし、長座体前屈、ボール投げで、女子は握力、ボール投げで県・全国平均を上回った。授業はもちろん、休み時間の体育館使用などで、運動する時間を確保したことが要因であると考えられる。今後もICTを活用しながら、児童の体力向上につなげていきたい。
19	中藤	小学校	運動が「大変好き」「まあまあ好き」と答えた児童が全体の7割いた。(体力テストのアンケート結果より分析) 「週に一回以上運動を行う」と答えた児童が全体の8割以上、「一日30分以上運動をする」と答えた児童が6割以上いた。
20	大安寺	小学校	水泳、なわとびの外部講師の指導にて水の中にもぐれるようになったり、二重跳びの回数が伸びることができたりした児童が見られた。 ろう学校と合同の器械運動交歓会を3年ぶりに実施し、他校の児童と交流する中で、体育に取り組む姿勢や器械運動の技を学び合うことができた。
21	河合	小学校	トップアスリート派遣の授業による投げ方の指導から、体力テストのソフトボール投げが5年男子・4年女子・6年女子で全国平均より優れているという結果が見られた。6年女子に関しては、全国平均より3m以上であった。 なわとびカードやマラソンカードの配布によって、いろいろな技に挑戦したり、自分で目標を決めて取り組んだりし、回数を増やしたりタイムを縮めたりすることができていた。 各学年、体育でのびねすダンス練習から、体育大会での全校の準備運動を成功させることができた。

22	麻生津	小学校	昨年度より体幹を意識させながら体育科の授業を行ったことで、体力テストにおける上体起こしの結果が、各学年においておおむね良好であった。 学校行事を主軸とした短期的な目標を設定し、体育科の授業以外の取組とも関連させながら、年間を通して体力向上に努めることができた。
23	国見	小学校	アクティブ1で意欲的に活動できた児童が91%(昨年度79%)、いろいろな運動にチャレンジできた児童が88%(昨年度85%)、教え合いができた児童が85%(昨年度82%)と、昨年度に比べて意欲的に運動に取り組んだり教え合いながら運動したりする児童が増えた。 休み時間に、外遊びをする児童が増えた。また、鉄棒やなわとびの技に対するめあてを持って、進んで練習をする児童が増えた。
24	岡保	小学校	昨年度は、昼休みの時間に鉄棒とマットのみの使用だったが、今年度は体育委員会の話し合いにより、跳び箱も実施できるようにした(曜日ごとの種目設定)。低学年は高学年の技を見ることができ、高学年は器械運動発表会に向けての練習の場となった。
25	東藤島	小学校	感染症対策について制限がある中、器械運動の学習で、タブレットの動画アプリを活用して手本の動きを確認したり、友達にポイントを伝え合ったりし、児童同士で高め合う活動ができた。 また、なわとびカードの工夫や、ランク上位者(名人、仙人、神など)の掲示物により「トード」「クルーガー」など、今までやったことのない技に楽しみながらチャレンジしていた。さらに、必然的に教え合う場が生まれ、体や縄の動かし方を考えながら上達する児童も増えた。
26	殿下	小学校	小中合同体育や休み時間の遊びを定期的に行い、地域の方や保護者とのスポーツ大会を実施したことで、チーム競技の楽しさを味わうことができた。 ICT機器や体育ノートを活用したことで、考えて運動し、見つけた視点を生かして仲間同士でアドバイスし合う姿が増えた。互いに刺激し合うことで、様々な技の上達につながることができた。
27	鶉	小学校	グーパー体操に取り組んだことで、体力テストの結果の握力のポイントが県平均より男女ともに2.9ポイント高かった。また、業間休みに体育館やグラウンドで運動に親しむ機会を作ったことで、男子の50m走のポイントが県平均より0.4ポイント高かった。
28	本郷	小学校	学校評価で「体育の授業や大休みの時間にしっかりと体を動かすことができた」と答えた児童が91%であった。 体力テストでは長座体前屈、20mシャトルラン、ボール投げで県平均の記録を上回ることができた。大休みに、積極的に鉄棒の練習に取り組んだり、ボール運動を楽しんだりしている児童が多く見られた。
29	棗	小学校	体育の授業で陸上運動の際に、短距離走ではスタート・中盤・終盤の走り方の基本や体の動かし方を身につけたことで、昨年度は本校児童が苦手としていた体力テストの50m走の項目の数値が上昇した。
30	鷹巣	小学校	運動が苦手な児童が、自分なりの目標を定めて、意欲を持って運動に取り組めた。 感染防止に配慮しつつも運動量を確保することで、コロナによるストレスを感じている子がなくなり、心の健康が維持できた。 学校全体での行事が復活し、高学年の児童の技を見てお手本にしたり、低学年の児童に高学年の児童が指導したりするなどの交流が見られた。 「目標を持ち、それに向かって友達と励ましつつ努力を重ね、できるようになった達成感を感じる。」といったよい流れの活動ができた。
31	長橋	小学校	学校評価児童アンケートの「自分は、休み時間や放課後に進んで運動している」という項目において、94%の児童が肯定的な回答であった。 校内体育大会に応援パフォーマンスを取り入れたことで、下級生が上級生から学ぶ様子や、表現運動(ダンス)を楽しむ姿が見られた。 ICT機器を使用して、技のポイントを調べたり、自分の演技を客観的に捉えたりすることで、より高度な技の習得につながっていた。
32	森田	小学校	昨年の体力テストとの比較では、4年生と5年生の男女ともにそれぞれ4項目以上の向上が見られた。特に立ち幅跳びと反復横跳びの記録が向上した。5年生で「運動が楽しい」と答えた児童は、男子が96%、女子が87%に達し、昨年と比較してそれぞれ5%以上の向上が見られた。
33	明新	小学校	体育の時間で「グーパー体操」を継続的に行っており、体力テストの握力ではよい結果を得ることができた。 コロナ禍での運動の行い方を検討することで、個人で簡単にできるような運動を考えることにつながった。

34	酒生	小学校	委員会活動の一環として、全校児童対象の運動を企画し取り組んだ。本校は学年単学級であり、昨今は特にコロナ禍もあって他学年と交流する機会が十分にもてず、クラス単位での活動が多かった。そのため、全校での取組はとて盛り上がり、楽しむ様子が見られた。また、大会に向けて意欲的に練習する児童たちの姿も見られ、普段より体育館に出て体を動かす人数が増えた。
35	一乗	小学校	1年生から6年生まで、大休みの時間や体育が始まる前の休み時間に、サッカーやドッジボール、ドッジビーなどでボールを使って意欲的に遊んだり、練習したりする児童が増えた。また、冬には鉄棒やなわとびで練習する児童が多く、声をかけ合って励まし合っている姿がよく見られた。
36	上文殊	小学校	業間体育でグラウンドコースを取り入れたことで、昨年度に比べ、自分のペースをつかめる児童が増え、20mシャトルランの平均得点が向上した。 8の字とびの記録を掲示したことで、児童は自分の学年の記録を更新するために、意欲的に8の字とびに取り組み、更なる記録の向上に繋がった。
37	六条	小学校	リレーのチームは、毎時間固定して行い、タイムの縮んだ秒数を競うようにした。上記の運動やチームでの取り組みから、6秒縮められたチームもあった。振り返りで挙げた児童の活躍を掲示することで、児童の自己肯定感の向上につながることでもできた。
38	文殊	小学校	マラソン大会では、業間にたくさん練習に取り組む児童が増え、順位やタイムが上がった児童がたくさん増えた。運動への積極的な取り組みがあらゆる場面で見られた。
39	東郷	小学校	大休みにも鬼遊びやドッジボール、鉄棒の練習、縄跳びの練習など、進んで運動に取り組んでいる姿が多く見られた。 ボール運動の学習では、児童同士コミュニケーションを取り、攻め方や守り方を考えながらゲームを楽しんでいた。 器械運動では、感覚を養う運動に十分に取り組むことで、高度な技能を習得する児童が増えた。
40	日新	小学校	感染症対策では、換気や手洗い、マスク着用の習慣が身につく、体育の授業の中でも、意識して取り組んでいた。 授業の取り組みや業間活動を工夫したことで、学校評価での児童の回答で「児童の体育の時間や休み時間などしっかり運動している」という児童がR3年度と比べて5%以上上昇した。
41	清明	小学校	時間走に繰り返し取り組んだことで、マラソン大会では去年よりもタイムがアップする児童の割合が高まった。 運動委員会のイベントによって、学級で誘い合ったり、競い合ったりしながら運動に取り組む様子が見られ、特に冬季の体育館使用率が高まった。 また、器械運動の学習では、タブレットを活用したことで、みんなで動きを共有し、改善点が明確になった。
42	社西	小学校	保護者アンケートにおいて、85%の保護者が「学校は児童の体力づくりに努めている」と回答した。今年度の体力テストの結果より、昨年度課題であった握力において4～6年生で県平均を上回る学年が増加した。
43	下宇坂	小学校	業間運動での持久力向上に努めたため、体力テストにおける20mシャトルランの平均記録は、全学年男女ともに市平均・県平均を越えていた。 器械運動では、お互いの技を見合ったり、タブレットでの録画を活用したりしたことで、どの児童も美しい技を目指そうと意欲的だった。
44	羽生	小学校	毎時間三分間走を続けることによって、はじめは辛そうにしていた児童が、「今回の三分間走は全然辛くなかった」と言うようになり、成長が感じられた。 なわとびの学習カードを作成することによって、休み時間になわとびに取り組む児童が増え、冬場の体力向上につながった。
45	美山啓明	小学校	「体育や休み時間に進んで運動に取り組んでいる」という児童は90%を越え、運動が好きな児童も多い。日頃の休み時間での運動遊びや縦割り運動の成果として、筋力や筋持久力が県より高い結果となった。多くの項目で県平均を超えているので、引き続き縦割り運動や運動する場を計画していきたい。
46	越廼	小学校	トップアスリートの派遣により、投げる動作について指導をいただいたことで、ソフトボール投げの記録が伸び悩んでいる児童たちも、投げるコツを学び意欲的に学習に取り組むことができた。 また、小中連携して海での遠泳学習を設けたり、近隣の小規模校と体育の合同授業を実施したりしたことで、様々な人との関わりが刺激となり、意欲的に学習に取り組むことができた。

47	清水西	小学校	<p>昨年に引き続き、感染症拡大防止の観点から業間運動には十分に取組みなかったが、活動に取り組むめあてとふり返りを充実させることで、前向きに運動に取り組む児童が多く見られるようになった。来年度は、活動のふり返りを一層充実させ、運動を楽しむ児童の育成を目指していきたい。</p>
48	清水東	小学校	<p>50m走の記録を3度測定し、記録を比較することで、意欲の向上を図り、記録を伸ばした児童が多かった。(50m走の記録の伸び 80%が向上) 業間体育では、カードを用いて目標を持って取り組める環境があることで、進んで運動する児童が多かった。(児童アンケート 前期:91% 後期:84%)</p>
49	清水南	小学校	<p>学習カードを活用したことで、お互いの記録に目を向けることができ、競い合いながら練習に励む児童がいた。 体育的行事は分散や縮小という形になったが、可能な範囲で6年生が中心となって計画を進めることができた。 器械運動やなわとびは、苦手な児童も休み時間を使って技の練習をする姿が見られた。また発表会を見た低学年は、高学年が発表した技の練習に取り組む姿が見られた。</p>
50	清水北	小学校	<p>マラソン、なわとび、器械運動では体育的行事を実施したことにより、児童はそれぞれの運動に向かう動機付けとなり、その結果、熱心にかつ主体的に取り組む、どの児童も技能の向上を実感することができ、達成感を味わえた。 持久走やなわとび等において、友達との比較ではなく「自己の技能の向上」に目を向けることを重視したことで、児童の意欲が高まり、学級全体でも切磋琢磨する姿が多く見られた。特に、運動の得意ではない児童も、少しでもタイムが上がったり回数が増えたりすることにより「さらに記録を伸ばしたい」という意欲をもって取り組んでいた。</p>
51	杉坂	小学校	<p>授業始めの5分間走で、体力の向上が見られた。 (1回目:17周 → 2回目:18周 → 3回目:19周 → 4回目20周) バレーボールにおいて、朝活動と授業、寮活動での運動を平行して行ったので、大幅な技能の向上が見られた。 (円陣パスで、20回も続かなかつたのが、80回近く続くようになった。)</p>